

# 自閉症協会入会の

## お誘い

ぜひこの機会に入会を！

現在、発達障害支援法成立記念の日本自閉症協会入会キャンペーン中です。キャンペーン中に入会されますと、ベストセラーの「自閉症ガイドブック乳幼児編」がプレゼントされます。2005年の12月3日から2006年12月2日までとなっていますので、まだまだ間に合います。会員各位からお知り合いの関係者にお声がけよろしく願います。

現在、奈良県は全国的には少数会員支部の一つとなっています。出来れば現在の倍は会員数が欲しいもの

です。

なお会員資格は自閉症の親・家族のみの対象ではなく、本人、教員、保育士、医療関係者、政治家・福祉関係者など協会の活動に関心のある方ならどなたでも会員となっていただけます。

今、協会の組織改革を進める動きがあります。奈良県もさらなる自閉症児者の福祉向上を支援するため運動体としての組織強化が必要です。まずは会員を増やし、関係者に対する発言力を増強しようではありませんか。皆様のご協力よろしく願います。

支部長 河村舟二

# 9

月30日及び10月1日に支部役員連絡会が東京で開かれ、その中で、

組織改革とともにAの広告機構の新聞掲載を一年切りの取り組みでなく来年・再来年どうするかという話がありました。結論として来年も続ける。年400万円かかる資金は募金を行おうということになりました。そして、下記のメーリングリストの文にあるような入会者の増加もねらった、自閉症理解と支援のキャンペーンを開始していくことになりました。今後奈良県支部の各部会等で詳細を説明したいと思います。皆様のご協力よろしく願います。(河村)

○支部の皆さまへ

「自閉症」理解と支援のキャンペーンのための募金活動の準備が整いましたのでご案内申し上げます。たくさんの皆さまのご協力をどうぞよろしく願います。

第104号

2006  
Oct.

10

THE KIZUNA

いとご増刊

<http://www.eonet.ne.jp/~asn/>

社団法人日本自閉症協会  
奈良県支部ニュース

発行人：社団法人日本自閉症協会  
石井哲夫  
編集人：社団法人日本自閉症協会  
奈良支部  
支部長&事務局：河村舟二  
〒639-1005  
大和郡山市矢田山町 84-10  
購読料1部 100円  
会員は会費に含まれています。

協会は、これまでも自閉症の手引きやガイドブックなどを通じて自閉症の理解啓発活動に取り組んできていますが、外見からは障害がわかりにくいこともあって、いまだ「自閉症」を心の病や親の育て方が原因であると理解している人が少なくなく、自閉症の本人や家族は多くの困難を抱えて地域で暮らしています。2004年12月の「発達障害者支援法」成立を機に、日本自閉症協会では、このような自閉症を取り巻く環境を打破するために、一般市民への更なる自閉症への理解の広がり求めて啓発活動の新しい形を模索し、昨春、Aの公共広告機構へのアプローチを開始しました。(諸外国ではすでにAutism Awareness Weekなどメディアとタイアップした啓発活動が盛んに行われていますが、日本においてもいよいよメディアによる自閉症理解啓発への参入の取り組みのひとつとなり

ます。)その結果、AC公共広告機構の支援キャンペーンの一つとして「自閉症」を取り上げていただくことになり、本年7月1日より一年間にわたり全国123社の新聞媒体による支援キャンペーンがスタートしています。

広告は、各社とも新聞紙面が空いているときを活用してアットランダムに掲載されますので事前に掲載日をお知らせすることは出来ないのですが、ぜひ注意してご覧頂けたらと思います。また、この新聞広告掲載により次のような効果が期待できると考えています。

- ・自閉症の一般社会への理解啓発
- ・自閉症の本人や家族へのエール

支部の皆さまからのご意見を頂戴し、改善をして最終版としたいと考えております。ご意見、ご要望などぜひお聞かせください。

「自閉症」理解と支援のキャンペーンにぜひ多数の皆さまのご理解とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

氏田照子

・自閉症協会の存在(セイフティーネット)の周知

AC支援キャンペーンの新聞掲載が始まり、協会への相談電話件数やホームページのアクセス数が増加してきています。協会では、今年7月より開始されたAC

公共広告機構による支援キャンペーンに合わせて、自閉症理解啓発のポスター作りやホームページの充実にも取り組み、全国で「自閉症」理解と支援のキャンペーンを行うことにより、多くの方に自閉症を正しく理解していただくという協会のミッションを実現したいと考えています。つきましては、一人でも多くの皆さまのキャンペーンへの参画をお願い致します。

します。

本キャンペーン実施にあたり、募金活動を開始いたします。一人でも多くの皆さまのご協力をいただけますよう、広くお友だちやお知り合いにもぜひお声かけくださいますようお願いいたします。

皆さまから寄せられた募金は、AC公共広告機構支援キャンペーンの費用、ポスターやちらしの作成費用、その他、自閉症のことを理解していただくための取り組みの費用として活用させていただきます。

尚、「自閉症」理解と支援のキャンペーンは、総責任者を石井哲夫会長、実行責任者として氏田がこれを担当します。ま

た、ホームページとの連携も含め、啓発物の企画・作成などを中心とした仕事の事務局を津田HP委員長に担当をお願いし、今後は、企画を一緒に検討していただくための数名のスタッフを別途お願いしていく予定です。

協会からの要請文ならびに募金活動のお願い文書については以下のURLからご覧ください。

要請文書 <http://www.autism.or.jp/inside/rikai/rikai20061008.pdf>

募金のお問い合わせ <http://www.autism.or.jp/inside/rikai/bokin-color20061007.pdf>

尚、「募金のお問い合わせ」については、

## 組織改革について

日本自閉症協会は平成元年に全国親の会から社団法人の資格を確保するため新しい定款を定めました。しかし、この定款には、まだまだ親の会的要素が数多く残っており、本来の公益法人ではふさわしくない内容も暫定的に認めざるを得ませんでした。これが現在まで（平成元年～18年）続いています。しかし、H18年5月26日可決成立した国の公益法人制度改革慣例法案（法律公布の日H.18.6.2から2年6ヶ月を超えない範囲で制令で定める日施行）の実施に伴い、公益法人としての団体の基本体質を見直し、公益社団法人取得に向けた改革を行ない組織強化しなければならなくなりました。概要はひとしご NO 99の5ページから8ページに載っていますので、ぜひ会員の皆様は目を通してください。

大きな変更点は、これまで「社団法人日本自閉症協会奈良県支部」と名乗っていた名称が、「奈良県自閉症協会」という公益社団法人日本自閉症協会の構成団体となる点です。詳しくは、今後お知らせしますが概要は次のようなものです。

### ○組織改革（B案）による変更事項

社団法人日本自閉症協会が名実ともに社団法人として生き残る為には、現行の悪しき慣習を改め、大同団結し

て公益社団法人取得に向けた改革を行わなければならないことが、9/30～10/1の支部役員連絡会議において凡そ了解を得ました。なお、以下は案であり、今後変更はあり得ます。

○社員…都道府県および政令指定都市に各々1団体を社員として会長が認定する。但し政令指定都市にあつては、帰属する都道府県地方団体の了承を得なければならない。

○総会…各地方団体により選任された代議員が議決権を持って臨む。総会を欠席する場合は委任状により他の出席代議員に議決権を委ねることが出来る。また代議員の代理人は認められないが、傍聴人となることは出来る。

○会費…地方団体は正会員、賛助会員別に定められた金額を地方団体構成員数に適応した金額を本部に納入するこれまでのダイヤモンドファクターは利用できないので一旦解約し、地方団体が構成員数分をまとめて納入する。

### 2. 地方団体（××県（市）自閉症協会）

○名称…基本的には地区名+自閉症協会とする。（eg）愛知県自閉症協会、川崎市自閉症協会 但し当面の間（新名称が地方に定着するまで）は社団法人日本自閉症協会××県支部を名乗ることも出来る。また助成金等との関係で適宜名称を使い分けてもいい。

○団体の種類…任意団体でも法人（NPO、社団、社会福祉etc）でもよい。

○代議員…代議員は地方団体を代表し、総会に議決権を持って参加する。

○代議員の数…地方団体は本部総会に於ける議決権を有する代議員の数を組織規模を考慮し別に定める算式（\*1）により求めた人数とする。

○地方団体の構成員…正会員、賛助会員により構成する。正会員のうち自閉症児者を持つ家族に限り家族の何れかを代理人とすることが出来る。また複数の地方団体に所属することは出来ないが情報を得るために他団体と個別に交渉し情報会員となることが出来る。但し情報会員については本部への報告は不要である。

○総会…構成する正会員により行う。但し自閉症児者を持つ家族に限り家族の何れかが代理出席することが出来る。

○会費…本部会費+地方団体活動費とし、正会員、賛助会員別に金額を地方団体独自に決める。但し本部会費分については本部総会で決定された額とする。

### 3. その他

○名簿管理…地方団体は会費を納入した所属する会員

名簿（正・賛）を年2回本部に提出する。地方団体は新規入会者については、会員IDを重複のないよう十分気を配って割り振る。本部は保有していた当該名簿を差し替える。名簿は別に定める共通のフォーマットにより作成する。

○出版物郵送…本部は地方団体より提出された名簿に基づき郵送物を発送する。但し、団体扱いの場合は地方団体が指定する住所に一括送付する。但し年度途中より入会した者に対しては年度初めから当月までの会報をまとめて発送する。

○委託事業…本部が得た補助金、助成金による委託事業はできるだけ小規模地方団体を優先して配分する。等です。

奈良教育大学より 公開講座のお知らせ

平成18年度公開講座

“ライフスタイルに応じた特別支援教育”

～地域における連携とネットワークづくり～

開催趣旨：

平成19年度より、特別支援教育への移行がなされようとして、軽度発達障害の子どもたちをはじめとして、充実した特別支援教育を実現していくために、乳幼児期、学齢期、青年期といったライフスタイルに応じた特別支援教育のあり方を考えます。また、地域での関係機関、関係者の連携とネットワークづくりの現状と課題を考えあいます。

主 催：奈良教育大学

会 場：奈良教育大学 講堂・大講義室

場 所：講堂・大講義室 200～300名まで

参加対象：教員等教育関係者、福祉・医療関係者、保護者、一般市民、学生、200名

日 時・内 容

〔第1回〕 10月21日（土） 13：00～16：00

場所 講堂

「ライフスタイルから見た軽度発達障害の理解と支援」

講演 北海道大学大学院教育学研究科教授 田中康雄先生

【参加費用】：1回 1000円

なお5回のうち4回以上出席者には修了証書を授与します。

【参加申し込み】：メールまたはファクシミリで10月17日までに下記あてに申し込んでください。申し込まれた方に参加費用の振込先を連絡いたします。

記載事項… 題名(件名)「公開講座・ライフサイクル・申込」  
参加講座名、氏名(ふりがな)、所属、連絡先電話番号(FAXの有無)、FAX番号 または アドレス、参加日

【申込・連絡・問合せ先】

奈良教育大学 総務課 池田 隆一

TEL 0742-27-9108 FAX 0742-27-9141

Mail: ikeda@nara-edu.ac.jp

【講座内容についての問合せ】

奈良教育大学 特別支援教育 玉村 公二彦

TEL & FAX 0742-27-9254

Mail: mamura@nara-edu.ac.jp

※ 一般案内 OK

※ 申し込みは 各自 個人でお願いします

〔第2回〕 11月25日（土） 13：30～16：30

場所 大講義室

「乳幼児期における発達障害をもつ子どもと親への支援」

講演 奈良教育大学教授 郷間英世先生

報告 仔鹿園：発達障害支援センター所長 岡本とも子先生

〔第3回〕 12月9日（土） 13：30～16：30

場所 大講義室

「小・中学校における特別支援教育の現状と課題 - 学齢期の発達障害の子どもたち」

講演 奈良教育大学助教授 越野和之先生

報告 奈良教育大学附属校から

〔第4回〕 12月16日（土） 13：30～16：30

場所 大講義室

「高機能自閉症児の青年期に至る発達課題と支援」

講演 奈良教育大学教授 田辺正友先生

報告 奈良県障害児・者とともに歩む家族の会

〔第5回〕 1月13日（土） 13：30～16：30

場所 大講義室

「ライフスタイルに応じた特別支援教育への期待と提言 - 関係者の連携」

シンポジウム 親の会など

コーディネーター 奈良教育大学教授 岩坂英巳先生

奈良県発達障害者支援体制整備検討委員会

第2回の検討委員会が、平成18年10月5日10時～12時まで奈良県庁5階第一会議室でひらかれ、日本自閉症協会奈良県支部からは河村が出席しました。(1) 来年度に向けた発達障害者支援体制整備事業について (2) 発達障害に関する実施状況調査について (3) 発達障害児(者)のライフステージに応じた支援について (4) 発達障害支援センターでいあーの現状について (5) 意見交換の話し合いがありました。

来年度の奈良県圏域支援体制整備事業として、発達障害に関する実施状況調査の結果について検討する中、事業実施を名乗り出ている五條市で支援モデル的実践を行い、今後これを他圏域に波及させていくことが決まりました。

○来年度に向けた発達障害者支援体制整備事業の方針

1. 都道府県等支援体制整備事業…発達障害者支援体制整備検討委員会を設置して、発達障害児(者)の支援のあり方を検討し、乳幼児期から成人期までの一貫した支援体制整備を図る

2. 圏域支援体制整備事業…委員会で指定した1圏域(五條市)で支援をモデル的に行い、その成果を他圏域に波及させる・発達障害支援コーディネーターを配置・当事

者や保護者が日常的に利用可能な身近な病院、診療所、保健所、保育所、学校、福祉事務所、関係施設、ハローワーク等の関係者が連携し、個別支援計画を作成して必要な支援を行う3. 発達・相談支援等モデル事業 先駆的事業として成果を全国に普及できるものを対象に事業実施

事業の具体化については今後も検討委員会で話し合われることが確認されました。

## 事務局から

○AC 公共広告機構 2006 年度支援キャンペーンとして奈良新聞 7 月 16 日(日曜)9 月 24 日(日曜)に掲載されました。いずれも、「自閉症になったんじゃない。自閉症に生まれてきただけ。」のタイトルでかねすけ君バージョンでした。皆様ご覧になりましたか。

○日本自閉症協会本部の本年度ペアレントメンター養成講座にはベーシックコースに桜井さんご夫妻・フォローアップコースには上島さんが選ばれ受講されます。今後も養成事業が続くと思いますので、皆様も挑戦お願いします。なお、奈良県支部による養成事業もよろしく願います。

○2006 年度独立行政法人福祉医療機構助成「発達障害者の就労・自立のための人材養成事業」第 4 回講座 10 月 29 日奈良県文化会館小ホール 9:30 受付の坂井聡先生・田中浩一郎先生の講座への呼びかけよろしく願います。

○フジテレビ系・近畿は関西テレビで 自閉症の青年をテーマにしたドラマ「僕の歩く道」の放送がはじまりました。僕の歩く道(第 01 話)10 月 10 日、22:00(夜 10 時は「誰よりも純粋な男」で出演者は…草なぎ剛 香里奈 佐々木蔵之介 MEGUMI 本仮屋ユイカ 小

日向文世 加藤浩次 大杉漣 長山藍子さんです。読売新聞の朝刊の試写室に次のような紹介がされていました。「・・・自閉症の表現に関しては、・・・「レインマン」など、過去の名作映画の踏襲にとどまっている感もある。しかし、そういった障害や周りで支えている人々の様子が、視聴者に身近な俳優らによって、より理解を促されるならば大きな意味がある。中でも、役に没入しているような草薙(剛)の演技には目を見張るものがある」内容はフジテレビの h p に紹介されています。<http://www.fujitv.co.jp/index.html>

○k - PRO についてうまくまとめられた記事です。奈良県支部もこのネットに繋がっています。奈良県でもこんな取り組みをしたいものです。・・・

保護者ら警察や鉄道と連携知的障害児の犯罪被害防止へ 地域全体の理解を促す東京「安全ネット八王子」 犯罪被害やトラブルに巻き込まれがちな知的障害児を地域全体で支えていく試みが、各地で広がっている。東京都の「安全ネット八王子」(木村靖子代表)では、警察や鉄道などと連携し、地域の理解や本人の目己防衛力を育む研修会などを開いている。

8 月下旬、安全ネット八王子は、知的障害や発達障害のある子どもと保護者らを対象にした体験塾を開いた。

大学生ボランティアと八王子警察署員の協力で、車の連れ去りやキャッチセールス、宅配への対応、留守番、逃げ方などの危機回避スキルを疑似体験。コミュニケーションがうまくいかないためにトラブルになることが多いため、午後からは専門家によるソーシャルスキルトレーニングも実施した。参加者は 55 人。「子どもの人間関係上のトラブルで悩んでいる親が多かった」と木村代表は言う。同ネットが発足したのは平成 15 年。都立八王子養護学校で同年 1 月に開かれた、堀江まゆみ・白梅学園短大教授の講演会がきっかけだった。福祉が施設から地域に移行するのに伴い、知的障害のある人たちが地域で犯罪に巻き込まれたり、トラブルを起こしたりする機会が増加。親や学校だけでなく、警察や消防、鉄道会社、コンビニなど地域のネットワークで障害のある人たちを支えることを、堀江教授は語った。この講演に感銘を受けた地域の中学校の心障学級の親たちが、早速勉強会をスタート。3 月に、同ネットを発足した。同ネットが力を入れているのが、地域の関係団体との連携だ。特に八王子警察署には足繁く通い、堀江教授らの研究班が作成した警察向けのパンフレットを全交番に配布してもらった。また、コミュニケーションボードや八王子版コンビニパンフなどを、子どもと一緒に地域の交番、駅、コンビニ等に配布。トラブルが起きる前に人間

関係を育むことで、地域の理解を広げている。一方、障害のある子どもたちが地域で気持ちよく暮らしていくためには、子ども自身の友達づくりやコミュニケーション能力向上も欠かせない。本人支援の一環として、毎週水曜、中軽度の知的障害のある中高生を対象に、自立生活の基礎となる教科学習を実施。指導するのは大学生のボランティアたちだ。ルールや規律も学ばせたいと、月1回、日曜日にスポーツ活動もしている。木村代表は「障吉のある子どもが地域で暮らすために、警察の理解は欠かせない。学校と警察の間に入ることで、地域全体での連携を進めていきたい」と話している。堀江教授は、知的障害者の犯罪被害防止などの活動をしていた12年に、アメリカでの対応を視察。警察署内に知的障害者専門の警察官がいて、時間を掛けて調書を取ったり裁判や法律の意味をじっくり解説していたことにヒントを得て、警察との連携を中心にしたセーフティネット「K-pr o」の構築を始めた。14年度から3年間、厚生科学研究として実態調査を進めるとともに、東京、大阪、札幌の3カ所をモデル地域に実践。併せて全国で講演などを行い、各地で地域版のセーフティネットが生まれた。「安全ネット八王子」もその1つだ。知的障害のある人たちが受けやすい被害は、性被害や消費者被害、施設内などでの暴力、いじめなど。さらに、不審者と間

違われ通報されたり、コンビニで商品を食べってしまうなど、身近な場面でのトラブルも絶えない。地域で安全に生活するためのアドボカシー（権利擁護）のためには、裁判や成年後見制度などのシステム・アドボカシー、家族や近所の人たちなどによるインディビジュアル・アドボカシー、自分で自分を守るというセルフ・アドボカシーの3段階が必要であり、「地域でのセーフティネットは、インディビジュアル・アドボカシーの充実を目指すもの」と堀江教授は説明する。一方、危険回避の疑似体験などは、セルフ・アドボカシーを高めるためのもの。今後は、青年期向けのプログラムや、軽度発達障害児向けの工夫が求められており、堀江教授は来年をめどに、軽度発達障害児・者に対する地域の理解を促すプログラムの開発を進めている。日本教育新聞 06/09/11

☆日本発達障害ネットワーク第2回年次大会

日 時：平成18年12月10日（日）10:00-17:50

会 場：成蹊大学

東京都武蔵野市吉祥寺北町3-3-1

JR中央線・京王井の頭線 吉祥寺駅より路線バス5分

<会 費>

■フォーラム参加費 事前申込 3,000円（当日 4,000円）

■懇親会参加費 5,000円（事前申込のみ）

<定 員>

800名（定員に達し次第受付を終了させていただきます）

<開催の目的>

発達障害者支援を巡る諸問題 ～現状と課題～

1. 発達障害者支援の目標＝到達点を明らかにする。
2. 現状（各種調査の実施と発表）を明らかにする。
3. 国・自治体、当事者団体、学会、職能団体、JDD ネットは何をすべきかを明らかにする。
4. 当面の課題と目標を明らかにし、提言する。

日本発達障害ネットワーク（JDD ネット）は、発達障害関係の全国団体・地方団体や発達障害関係の学会・研究会、職能団体なども含めた幅広いネットワークで、全国団体12、エリア団体37が加盟しています。JDD ネットは、障害の種別、学会・学派、職種、立場や主張、地域等の壁を越え、当事者支援を主眼に置いたネットワークを目指しています。JDD ネットの年次大会は発達障害に関係する全ての方が一堂に会して開催するものです。多くの方のご参加をお待ちしております。

<主 催>

日本発達障害ネットワーク（JDD ネット）

<後 援>

文部科学省、厚生労働省、東京都教育委員会、神奈川

県教育委員会、埼玉県教育委員会、千葉県教育委員会、横浜市教育委員会、川崎市教育委員会、千葉市教育委員会、日本障害者協議会、日本障害者リハビリテーション協会、全日本手をつなぐ育成会、NHK 厚生文化事業団、明治安田こころの健康財団、毎日新聞社、読売新聞社、産経新聞社、日本経済新聞社（一部申請中）

【ご留意事項】プログラム等是一部変更することがあります。

詳細は、JDD ネットのHPをご覧ください。（<http://jddnet.jp/>）

プログラム

■大会実行委員長挨拶 [10:00-10:05]（4号館ホール）  
石井 哲夫（JDD ネット名誉代表）

■来賓挨拶 [10:05-10:15]  
尾辻 秀久（発達障害の支援を考える議員連盟会長）

【講 演】

■講演1 [10:20-11:10]（4号館ホール）

「発達障害者支援を巡る諸問題 ～発達障害の基本概念」  
栗田 広氏（東京大学名誉教授）

■講演2 [11:10-12:00]（4号館ホール）

「発達障害者支援を巡る諸問題 ～教育・心理を中心に」  
上野 一彦氏（東京学芸大学・教授）

■講演3 [13:00-14:00] (4号館ホール)  
 「発達障害者支援を巡る諸問題 ～発達障害と非行」  
 小栗 正幸氏 (鳥取少年鑑別所所長)

■講演4 [14:00-15:00] (4号館ホール)  
 「発達障害者支援を巡る諸問題 ～発達障害と医療」  
 市川 宏伸氏 (東京都立梅ヶ丘病院 院長)

【行政解説 & トーク】 [14:00-15:50] (5号館 102号)  
 「特別支援教育、発達障害者支援法を解剖する」  
 行政解説Ⅰ 文部科学省  
 瀧本 寛 (文部科学省 特別支援教育課長)  
 行政解説Ⅱ 厚生労働省  
 大塚 晃 (厚生労働省 障害福祉専門官)  
 質問者  
 中村 文子 (日本自閉症協会理事)

内藤 孝子 (全国LD親の会副会長)  
 【シンポジウム】

■大会企画シンポ [15:15-17:50] (4号館ホール)  
 「発達障害者支援や特別支援教育に専門家がどう関わっていくのか？」  
 司会 山岡 修 (JDD ネット・代表、全国LD親の会・会長)  
 問題提起 発達障害者支援センターの実情と展望  
 石井 哲夫 (日本自閉症協会会長・東京都発達障害者支

■企画シンポ3 [10:20-12:20] (5号館 201号)  
 「発達障害児、特別支援教育への支援～NPOなど民間だからできること」  
 司会 藤堂 栄子 (エッジ代表)  
 話題提供 一部交渉中

■企画シンポ4 [14:00-15:50] (5号館 101号)  
 「学校教育現場における専門職の関わりについて～作業療法士が行う具体的な支援とは～」  
 司会 三澤 一登 (日本作業療法士協会理事)  
 話題提供 笹田 哲 (神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部)  
 仙石 泰仁 (札幌医科大学 保健医療学部)  
 加藤 寿宏 (京都大学医学部保健学科作業療法学専攻)

■企画シンポ5 [14:00-17:00] (5号館 201号)  
 「どうなる!? 自閉症支援」  
 司会 氏田 照子 (日本自閉症協会副会長)  
 奥野 宏二 (全国自閉症者施設協議会会長)  
 話題提供 小久保 恭子 (家族)  
 石橋 悦子 (東京都発達障害支援センター)  
 高山 和彦 (社会福祉法人同愛会)  
 安井 愛美 (サポートセンターぴっころ)

援センター所長)  
 話題提供 田中 康雄 (北海道大学大学院・教授)  
 倭文 真智子 (日本臨床心理士会・理事)  
 杉原 素子 (日本作業療法士協会・会長)  
 柘植 雅義 (兵庫教育大学・教授)

指定討論 福島 豊 (衆議院議員、発達障害者の支援を考える議員連盟・事務局長)  
 石井 哲夫 (日本自閉症協会会長)

■企画シンポ1 [10:20-12:20] (5号館 101号)  
 「いよいよ始まる特別支援教育～高校段階の現状と課題～」  
 司会 山岡 修 (全国LD親の会・会長)  
 話題提供 内藤 孝子 (全国LD親の会・副会長)  
 笠井 恵美 (大阪府立芦間高校・養護教諭)  
 田代 百代 (東京都立矢口養護学校・教諭)

指定討論 柘植 雅義 (兵庫教育大学大学院・教授)  
 牟田 悦子 (成蹊大学文学部・教授)

■企画シンポ2 [10:20-12:20] (5号館 102号)  
 「二次障害の理解と予防～今、私たちに出来ること～」  
 司会 高山 恵子 (えじそんくらぶ代表)  
 話題提供 田中 康雄 (北海道大学大学院教授)  
 近藤 直司 (山梨精神保健センター所長)  
 品川 裕香 (ノンフィクションライター)

助言者 尾辻 秀久 (予定)  
 (発達障害の支援を考える議員連盟会長)

■企画シンポ6 [16:00-17:50] (5号館 101号)  
 「一生涯を通じた支援体制を造るための課題」  
 ～発達障害者の乳幼児期から成人期までの各ライフステージに対応する支援を行うために～  
 司会 工藤 宏子 (日本臨床心理士会)  
 冠木 久仁子 (日本臨床心理士会)  
 話題提供 松村 裕美 (墨田区すみだ福祉保健センター)  
 新堀 和子 (全国LD親の会・理事)  
 尾崎 ミオ (日本自閉症協会東京都支部副支部長)  
 指定討論 吉田 弘道 (専修大学)

■本人トーク [16:00-17:50] (5号館 102号)  
 「発達障害の日常生活、楽しい暮らしをつくるには!？」  
 司会 辻井 正次 (中京大学教授、アスペ・エルデの会理事長)  
 トーク ニキ・リンコさん  
 コスモスさん

【実践発表】

■実践発表1 [10:20-12:00] (3号館 102号)  
 「当事者・家族への具体的な生活支援とは

平成18年度独立行政法人福祉医療機構の助成による

「発達障害者の就労・自立支援のための人材事業」

主催 社団法人日本自閉症協会奈良県支部

第4回講座のご案内

日時 平成18年 10月29日(日) 9:30受付

10:00~16:30

会場 奈良県文化会館小ホール 奈良市登大路6-2(近鉄奈良駅徒歩約5分)

午前の部 10:00~12:00

「わかるように伝えるために考える」講師 坂井 聡 氏

(香川大学 教育学部 障害児教育講座)

午後の部 13:30~16:30

「自閉症スペクトラムの支援とは？」

高機能自閉症・アスペルガー症候群から考えるー」

講師 田中 浩一郎 氏

(京都市児童福祉センター・児童精神科医)

問い合わせ先 上島 FAX0744-33-4755 e-mail [m-ueshima@k2.dion.ne.jp](mailto:m-ueshima@k2.dion.ne.jp)

参加費 500円 定員 300人 申し込み 不要

坂井聡先生

奈良県立北大和高等学校卒業 香川大学教育学部養護学校教員養成課程卒業

金沢大学大学院教育学研究科修了

言語聴覚士 香川県内の養護学校の教員を経て

2005年4月より香川大学教育学部障害児教育講座助教授

専門 障害児へのコミュニケーション指導

\* 10/29 わかるように伝える～、11/26 わかるように伝えてもらう～・

コミュニケーションのやり取りを考える2回連続講座です。

田中 浩一郎先生

H4年 京都大学医学部附属病院 精神科 H5年 公立豊岡病院 精神科

H9年 京都市児童福祉センター児童精神科 H16年 よこはま発達クリニック

平成17年 京都市児童福祉センター 児童精神科 現在にいたる

(平成17年11月より京都市発達障害者支援センターも兼務)

\*自閉症スペクトラムの支援とは! その障害の基本にもどって・・・

平成18年度独立行政法人福祉医療機構の助成による

「発達障害者の就労・自立支援のための人材事業」  
メンター養成講習会のご案内

17年4月より発達障害者支援法が施行され1年、今年も(社)日本自閉症協会奈良県支部では発達障害者の理解と療育・処遇の仕方を具体的に学ぶ講座を6回開催し、その講座受講の中からメンター希望者を募ります。

メンター(mentor)とは?

信頼のおける相談相手、良き師・先輩、助言者、庇護者

講習会は 相談やグループワークを行えるような人材の養成をめざし、「発達障害」の診断を受けた親たちへの情報提供をはじめ仲間作り、幅広い様々な支援ニーズに連携して対応しながら 草の根的にネットワークを組み、質の高い支援を展開できるような成果の蓄積をめざします。

日時(全4回)	場所	内容	講師
10月23日(月) 10:30~12:30	奈良市 男女参画センター あすなら	相談技術と 基礎知識 (情報の伝え方)	中手 英子 氏 千代田短期大学・臨床心理士
11月2日(木) 10:30~12:30	奈良県心身障害者 福祉センター	10月23日と 同内容講習	ビデオ
11月17日(金) 10:30~12:30	奈良県文化会館 会議室	リソースブックの 作り方と地域活動	ひょうご発達障害者支援センター 和田康宏氏
11月30日(木) 10:30~12:30	奈良県心身障害者 福祉センター	11月17日と同内容	ビデオ
11月28日(火) 10:30~12:30	奈良県文化会館 会議室	実技研修・ ロールプレイ(同内 容南部会場検討中)	ひょうご発達障害者支援センター 犬飼陽子氏
12月7日(木) 10:30~12:30	奈良市 男女参画センター あすなら	家族への支援 (同内容ビデオは 12月18日予定)	きょう こころのクリニック 院長 姜 昌勲氏

参加費 無料

参加申込み 裏面に必要事項を記入の上 FAX 又は メールにて

FAX 0744-33-4755

E-mail [m-ueshima@k2.din.ne.jp](mailto:m-ueshima@k2.din.ne.jp)

申込み締め切り 10月10日

\* 希望者多数の場合は 奈良県支部にて 選考させていただきます

メンター 養成講習申込書

平成18年 月 日

18年度 メンター養成講習に 申込みます。

氏名 \_\_\_\_\_ ( 歳 )

電話 \_\_\_\_\_

F A X \_\_\_\_\_

メール \_\_\_\_\_

お子様の 氏名 年齢 所属 兄弟の有無など

氏名 \_\_\_\_\_ 年齢 \_\_\_\_\_ 男・女

所属 \_\_\_\_\_

兄弟の有無 有・無

父	母	兄	姉	弟	妹	祖父	祖母	その他

\* (社)日本自閉症協会 奈良県支部 会員 ・ 非会員

\*現在の活動のご様子を 教えてください

---

参加希望会場 北部 ・ 南部